

# さんいく 恭

賛育会後援会事務局・〒130-0012 東京都墨田区太平3-17-8 TEL 03-3622-7614・編集発行者 小泉 美壽

## 神様からのプレゼント —あなたからのプレゼントは—

日本キリスト教団 東駒形教会

牧師 酒 井 薫

家に入ってみると、幼子は母マリアと共に  
おられた。彼らはひれ伏して幼子を拝  
み、宝の箱を開けて、黄金、乳香、没薬を  
贈り物として献げた。

(マタイによる福音書二章十一節)

二〇一七年クリスマスを迎えます。マタイのこの御言葉から『三博士の献げ物』として聖誕劇では三人の博士役を子どもたちが演じます。また、クリスマス イラストには三人の博士たちがラクダに乗って星を目指して歩む姿が描かれます。なぜ三人の博士と言われるようになったのか、それは贈り物の内容が、黄金、乳香、没薬の三種類だったからです。

この博士たちは『占星術の学者たち』と言われています。当時、『暦』を作成する能力は神様からの特別な能力だと知られていました。まだ地球が丸いと知らない、電気も光も使えない時代に、春分の日と秋分の日の上に、光が差し込む聖壇を設計出来たとしたら、その能力は神がかり的な力でした。暦を理解し解き明かす学者は、天の秘密を伝えることの出来る神からの使い、としての特別な権力を有したのです。



その学者たちが、首都エルサレムのヘロデ王のところに来て『ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか。わたしたちは東方でその方の星を見たので、拝みに来たのです。』と王に伝えたのです。王へロデが感じたのは「不安」だけでした。なぜならこの占星術の学者たちに示された星の力は、本物だと思われたからです。さらには、民の祭司長たちや律法学者たちに問い合わせても、その出生地は「ベツレヘム」だとの証言を得ましたから、不安はますます恐怖になってきたのだろうと想像できます。

しかし、首都エルサレムの人々はその地がベツレヘムだと分かっても、おおよそ二〇キロメートルしか離れていない場所だと教えられても、誰一人として一歩もその地へ動き出さずとはしませんでした。占星術の学者さんたちだけが、その地へと足を向けたのでした。自分たちの足で自ら動き出す、それがこの外国人(ユダヤ人から見ても)の献げ物でした。神さまからのプレゼント、神の独り子、われらの救い主・キリスト、幼子主イ

エス。この神の御子の誕生に対して、わたしたちが出来るプレゼントは、自らの足で出来る限り歩くと、一歩前進の方向性。そして与えられたものの中から精一杯のものを献げるといふ思い。ここに描かれている占星術の博士さんたちは三人でなくてもいいのです。この御子の誕生はわたしへのプレゼントと受け入れたすべての人々が、持てる物を献げ合い支え合うという思いで満たされて、プレゼントの分かち合いをすることこそ、新しい年へ向かってわたしたちが意識することです。ゴッド・ブレス。ユ。神のご加護が全世界の人々の上にありますように祈りを合わせ、このクリスマスをお過ごししましょう。



## 清風園(町田市)の地域活動



木曜日の午後四時半になると、「こども清風食堂」に子ども達が集まり始めます。子ども達の「こんにちわ」の挨拶に対して、ボランティアキャプテンが優しいまなざしで「いらっしやい。よく来たね」と一人一人に声をかけます。子ども達はカバンから百円を取り出して赤い貯金箱にお金を入れて、参加名簿とシールに自分で名前を書き胸にシールを貼ります。そして、冷蔵庫から好きなジュースを一本取って早速飲み始めます。子ども達はこの一連の流れを儀式と呼んでいます。

### こども清風食堂

開催日 毎月第一・第三木曜日  
午後五時～午後七時  
対象者 中学三年生まで

二〇一六年六月から始まった「こども清風食堂」は、一年半を経過してようやく軌道に乗りました。参加する子ども達もある程度定着しました。「清風園に行く」と皆で遊べたご飯が出るよ」と、参加した子供が学校で友達を誘い、誘われた子供がまた友達を誘うので、二〇回目を過ぎたところからは三〇名近い子ども達に来てくれて賑やかです。

二〇一五年一二月に、地域の民生委員から、「地域で困っているのはお年寄りばかりではないよ。もっと問題を抱えている家庭の子ども達にも目を向けて」と言われたことがきっかけで、「子ども食堂プロジェクトチーム」が発足しました。「どう

せやるなら清風園らしい、子どもが楽しめる子ども食堂にしよう」と、ボランティアと一緒にアイデアを練って、半年で「こども清風食堂」を立ち上げました。町市内初であり、社会福祉法人が福祉施設を開放して実施している「子ども食堂」は全国的にもまだまだ少数です。

「こども清風食堂」には、様々な特色があります。夕飯の時間は午後六時からで、全員で「いただきます」と手をあわせてから食べ始めます。食堂は2か所あり、一二名の子どもの方はグループホームの入所者九名の方と一緒にいます。子どもが大好きな入所者はすぐに子どものそばに寄り添います。最初のころは、子ども達が認知症の入所者の会話を戸惑っていましたが、最近はおばあちゃんと食べるのを楽しみにする子どもも増えてきました。平均年齢八〇歳越えの入所者は子ども達から見ると驚きの連続です。

また、子ども達に思いっきり遊んで発散してほしいとの思いから、デイサービス室や中庭を全面開放しています。そこでは、季節に合わせた色々なイベントを実施します。七月の「火を起こして飯盒炊飯でご飯を炊く」、一〇月の「ハロウィンお化けかぼちゃ作り」、一二月の「クリスマス会」、二月の「餃子作り」などどれも好評です。玉川大学教育学部の中村ゼミの学生ボランティアが趣向を凝らして盛り上げるので、大歓声が起こります。



運営の点では行政などの助成金を申請すると、様々な制約が生じます。「子どもが主役」であり、どんな子どもでも参加出来る、「よく遊び、よく学び、よく食べる」をコンセプトにして、自由にのびのびと活動を続けたいと考えます。

二〇一六年度には、賛育会後援会より地域活動・社会貢献活動支援金

を頂いたことで、ホームページが完成し、ホームページを見た多くの方々から励ましの言葉や寄付を頂くことが出来ました。現在も毎回の飲み物や果物、季節毎のイベントは全て後援会の支援金で賄っています。

また、今年度は夏季にも食材が保管できる大きな冷蔵庫を購入します。調理担当ボランティアさんの夢が叶います。この場をお借りしまして感謝申し上げます。

中には、たった百円でも払えない家庭もあります。あるいは孤食で寂しい思いをしている子も居ます。そうした子どもたちが笑顔で嬉しそうにご飯を食べています。挨拶の出来なかつた子どもが半年かけて挨拶をしてくれるようになりました。三つの小学校の子ども達も垣根を越えて遊べるようになりました。

そんな子ども達の心の成長が何よりも嬉しいし、毎回開催する楽しみでもあります。

これからも、高齢者と子どもが交流する居場所作りを地域に向けて発信していきます。

(清風園施設長 吉田 美香)







2017年10月10日、錦糸町の「すみだトリフォニーホール」大ホールで  
賛育会後援会主催のチャリティーコンサートが開催されました

一〇月一〇日、玉の肌石鹸株式会社様、ミヨシ石鹸株式会社様の協賛、社会福祉法人 墨田区社会福祉協議会様、東京商工会議所墨田支部様、社会福祉法人東京都社会福祉協議会様の後援を得て、「第一〇回チャリティーコンサート二〇一七」が、錦糸町のすみだトリフォニーホール大ホールで開催されました。

今回の出演者は、飯靖子氏(バイプオルガン)、マリンバデュオ「ウイングス」(吉岡孝悦氏、塩浜玲子氏)、赤羽一則氏(パーカッション)、オクサーナ・ステパニユック氏(コロラトウーラ・ソプラノ)、又吉秀樹氏(テノール)、比留間千里氏(ピアノ)の皆さん。例えばバッハの「トッカータとフーガ・二短調」は誰しも聞き覚えがあっても、それをバイプオルガンの生演奏で聞くとまた格別です。マリンバとパーカッションで奏でるラヴェルの「ボレロ」は、どんだん引き込まれて行ってしまいました。第二部の声楽のステージでは、冒頭からヴェルディの「乾杯の歌」で声楽の世界に引きずり込まれました。最後は、会場の全員が一緒になって「ふるさと」の合唱。毎年の恒例です。ご来場の皆さまからは、「馴染みのある曲、聴き覚えのある曲を一流の音楽家の演奏で満喫できて、楽しかった」等、ご好評をいただきました。

一、一六名の皆様のご来場と、八三社(八八口)の広告を頂き、盛会となりました。午後九時過ぎに終演。皆様、ご満足いただけたご様子で家路につかれました。

今回の純益三、〇五五、一五七円は、賛育会病院の建て替えの為に用いられます。ご協力、ご尽力、ご来場下さった皆様から心より感謝し、ご報告申し上げます。





**2018年3月16日**

賛育会が歩みはじめてから、この日でちょうど100年になります。100年の歩みの中で、常に人に寄り添い、地域の中で人を支えてきた賛育会。賛育会後援会は、そんな賛育会の働きをしっかりと応援していきたいと思えます。

地域活動・社会貢献活動の安定と充実を支援するために皆様からの募金・ご寄付をお願い申し上げます。

- 日本ゼネラルフード(株)
- 医療法人社団 相明会
- (株)みずほ銀行押上支店
- (有)エースプリント
- 村上 和夫 柏木 清枝
- 成島 恵美 高橋 千明
- 大関 満佐江 渡辺 信子
- 松岡 宏明 芦川 洋司
- 柴田 光昭 山田 公平
- 齊藤 實 垣花 昌彦
- 長山 和夫 石崎 朋夫
- 萩ノ谷克範 横江美江子
- 藤井 衛 杉本 理恵
- 新井 市川 八島 中島 村上 澤地 光子
- 小高 春代 祐三 茂 誠 俊一
- 板谷 邦子
- 山岸美智子
- 澤地 光子
- 村上 俊一
- 中島 誠
- 八島 茂
- 市川 祐三
- 新井 市川
- 小高 春代

ご芳志に感謝いたします。二〇一七年八月一日より二〇一七年一〇月三十一日まで、次の団体・個人の方々よりご芳志をいただきました。深く感謝し、お名前を記します。(敬称略・順不同)

## 地域の人のための笑顔のために 賛育会の働きをご支援ください

賛育会は、百年前に踏み出した最初の一步から、地域の方々にお仕えする事を使命として歩んできました。そしてその歩みは多くの方々のご芳志により支えられ、育てられてきました。今日、各施設で行われている地域活動・社会貢献活動はその流れを汲むもので、賛育会の根幹をなす重要な働きの一つです。

これらの働きを安定的に運営し続けるために、ご寄付をお願いいたします。

### 賛育会後援会要項

#### 維持会費(年間)

- A、5万円 B、3万円
- C、1万円 D、5千円
- E、3千円

#### 賛助会費(年間)

- A、30万円 B、20万円
- C、10万円

その他「クリスマス献金」等口数・金額にかかわらずお受けいたしますので、お願い申し上げます。

#### ご送金方法

本会所定あるいは郵便局備え付けの郵便振替「払込取扱票」に必要事項をご記入の上、ご送金願います。尚、「払込取扱票」は、本紙と併せてお送りいたしますので、ご使用ください。

#### 振替口座(郵便局)

001900-7-418054

#### 銀行振込

- 三菱東京UFJ銀行 押上駅前支店 普通預金 3694555
- みずほ銀行 押上支店 普通預金 1511088
- 三井住友銀行 錦糸町支店 普通預金 7087554

口座名義は「賛育会後援会」です。

#### クレジットカードによる決済

後援会のホームページから、ネットでお申し込みいただく事ができるようになりました。詳しくはホームページをご覧ください。

また、現金書留によるご送金や集金のご依頼もお受けいたします。機関紙をお送りします

会員の方々には後援会だより「さんいく」及び賛育会機関紙「賛育会ニュース」San'iku通信をお送りし、事業活動内容についてお知らせいたします。

#### お問い合わせ

賛育会法人事務局内  
賛育会後援会事務局  
TEL 03(3622)7614



## ネットからクレジットカードで 寄付・募金ができるようになりました!

ネットからクレジットカードを使って寄付・募金ができるようになりました。1,000円単位で任意の金額をご指定いただく事が出来ます。詳しくは賛育会後援会の公式ホームページから「ご寄付のお願い」のページをご覧ください。

後援会ホームページ <http://319kouenkai.jp/>

